

県内金融機関2020年3月期決算

	経常収益	経常損益	純損益
岐阜信用金庫			
(単)	28,777 (▲0.3)	3,937 (8.8)	2,670 (▲18.3)
(予)	—	—	—

【注】単位は百万円、%、(単)は単体、(予)は2021年3月期予想。
かっこ内は前期比増減率。

岐阜信金

実質業務純益39%増

3月期手数料収入が増加

岐阜信用金庫(岐阜市神田町)が11日発表した2020年3月期単体決算は、本業の収益力を示す実質業務純益が前期比39・8%増の48億2400万円で、2期ぶりの増益となった。金融商品の販売手数料を中心に役務取引等利益が増えたほか、業務の効率化に伴う時間外勤務の縮減も寄与した。

実質業務純益は、マイナス金利政策による低金利で資金利益が減ったものの、販売や相談業務の手数料収入などが堅調に伸びて役務取引等利益が約4億円増えた。経費は、働き方改革による勤務時間の見直しなどで約9億円削減した。純利益は、法人税などの増加や与信関係費用の増加が響き、18・3%減の26億7000万円。経常利益は8・8%増の39億3700万円で、2期ぶりの増益となった。経常収益は0・3%減の287億7700万円だった。

の1兆2940億円。期末預金残高は、法人預金が減って0・04%減の2兆3224億円だった。財務の健全性を示す自己資本比率は、0・05%上昇の9・41%で、国内基準の4%を上回った。21年3月期予想は、新型コロナウイルスによる影響が見通せないとして、公表しなかった。